

コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会

第6回全体委員会議事要録

日 時：平成 25 年 12 月 12 日（木）14 時 00 分～18 時 30 分

場 所：JCI 第 5 会議室（11F）

出席者：

（委 員）杉山央、渡辺博志、有川智、大久保孝昭、中村秀明、上田洋、江里口玲、草野昌夫、田沼毅彦、西田朗、渡邊悟士、荒金直樹

（オブザーバ）相良貴光

（事務局）岡田遼

資料：

- No.6-全体-1 議事次第
- No.6-全体-2 第 5 回全体委員会議事要録
- No.6-全体-3 コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会報告会(案)
- No.6-全体-4 コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会報告会 目次
- No.6-全体-5 同報告書 序文
- No.6-全体-6 同報告書 1 章
- No.6-全体-7 同報告書 2 章 2.2.2
- No.6-全体-8 同報告書 2 章 2.3
- No.6-全体-9 データシート コンクリート分野
- No.6-全体-10 データシート 土木分野
- No.6-全体-11 第 3 章報告書構成と担当者（案）
- No.6-全体-12 報告書構成（第 3 章 IC タグ関係）と担当
- No.6-全体-13 WG3 の報告書（案）
- No.6-全体-14 アンケート集計表（数値）
- No.6-全体-15 アンケート集計表（コメント）
- No.6-全体-16 保管重要度の分析結果一覧
- No.6-全体-17 WG4 供試体管理システム概要

**1. 前回議事録の確認**

- ・議事録案をもとに第 5 回全体委員会での検討事項が、確認された。
- ・宇都宮大学での実証実験は来年 1 月～2 月に予定、日程が決まり次第メールで連絡する。
- ・11 月に耐震壁での試行実験は、現場との行き違いがあり、IC タグの投入ができなかった。次回の床スラブ施工時には実施する予定。

## 2. 報告会開催について

- ・本委員会の報告会開催日を来年 6 月 27 日に決定した。場所は、日比谷図書文化館コンベンションホール。
- ・会場の使用時間が 17:00 までとなっているため、予定より 30 分早め、開催時間を 13:00-16:30 に変更する。
- ・報告会のときに手元の操作がわかるよう USB カメラで画面に映し出すようにする。USB カメラは中村 WG2 主査が持参する。
- ・報告書の作成方法については、「JCI 研究委員会報告書執筆要領書」に従う。電子版についても同様であり、ページ番号は記載しない。目次および表紙のフォーマットは岡田事務局から杉山委員長にメールで送る。

## 3. WG1 報告書について

- ・技術系統ごとに担当者がまとめる。データシートは、付録としてまとめて掲載する。
- ・登録特許の項は、検索方法の説明を行い、検索結果から登録特許の傾向についてまとめた。トレーサビリティに関係が深い 4 1 件については、付録として掲載し、そのうち重要と思われるものをピックアップして解説する。
- ・文献番号については、有川 WG1 主査がまとめて番号を振り直す。3 月 2 日締め切りなので、1 週間前までに原稿を提出する。

## 4. WG2 報告書について

- ・山口県の工事でトレーサビリティ実験に協力してくれる現場がある。来年 1 月～2 月にコンクリート工事がある現場で、GPS に関する試行実験を行う予定。参加希望者は、中村 WG2 主査が対応する。
- ・各種識別技術の概要についてコスト比較も追加したい。GPS はイニシャルコストが高いが、消耗品がなく、ランニングコストは、IC タグより安いなど。
- ・本文 3.4 は荒金委員も検討に加わる。

## 5. WG3 報告書について

- ・アンケートは 91 名分が集まった。今後 100 名まで集めて、重要情報の整理・とりまとめを実施する。グラフ化も行い分かりやすく考察を加える。
- ・アンケート調査で貴重なコメントを頂いた。委員会内では名前を明記しているが、報告書の段階で名前を削除する。
- ・宇都宮大学のアンケート者の分類は供用・維持管理とする。
- ・コンクリート情報項目の内容が、材料の流通を特定するものと製造の管理方法に関するものが混同されているが、分ける必要はないか。  
→重要なデータがどれか、残したデータをどのように利用すべきかに重点を置き考察す

るつもりである。このため、建築・土木もまとめており、材料の特定や管理方法もまとめて集計する形とした。

- ・以前、角倉委員が調査したアンケートも利用できそうなので、その結果も取り入れたい。
- ・保管難易度については、回答が任意だったためサンプル数が少ない。全体の平均をとって 100 点満点表記にすると分かりやすい。

## 6. WG4 報告書について

・11 月 25 日宇都宮大学耐震補強工事にて、iPad を使用した住友大阪セメントの供試体管理システムの試行実験のためのテストピースを作製した。テストピースは宇都宮大学に保管している。

・同日に、屋上の機械基礎の打設があり、鉄筋に固定するタイプの IC タグ 2 種類をセットした。今後、床スラブ増設工事にも試行実験を行うので、中村 WG2 主査には GPS での対応をお願いする。

## 7. 報告書全体について

・No.6-全体-5 の委員名一覧に示す各 WG にも、幹事を追加する予定である。WG1 幹事を角倉委員に、WG2 幹事を荒金委員に変更する。WG 幹事の追加について、2 月 20 日の研究委員会で報告を行う。

- ・所属名称について、建材試験センターを一般財団法人建材試験センターに修正する。
- ・名前の位置について、5 文字として両側の面を合わせる。
- ・資料 6 全体-6 のイメージ図について、土木と建築を分けて図示した。土木分野では発注者は、発注者・構造物管理者に修正する。文字が不鮮明な箇所は、修正する。枠内の空欄は、後で追記する。土木のイメージについては、渡辺副委員長に再検討してもらう。
- ・生コンのごみ熔融スラグ混入問題について、建築は生コン工場と商社が賠償責任を負ったが、土木は関東地整が原因の特定や問題処理を行った。この点で、土木・建築のイメージの違いがはっきりしないだろうか。
- ・施工実験は、宇都宮大学では建築物で、山口県では土木構造物で検証を行い、両方を紹介する。

・報告書の保存やバージョン管理が必要なので、中村 WG2 主査のサーバーを利用する。ファイルの名称は、「章・節・タイトル名・日付・バージョン」とする。

### 例 3.1.各種識別技術の概要 20131212-01

- ・報告書の管理がしやすいようにサーバー内を一端整理して、利用したいので、利用できるようになったら中村 WG2 主査から全員に連絡する。
- ・報告書の修正方法について、ワードの修正履歴機能は使いこなせない委員もいるので、赤字修正として承認されたら黒字に変更する。
- ・トレーサビリティの説明を 1 文目の後に移動する。
- ・プレキャストの位置づけについて、コンクリート工事一部として取り扱う。プレキャスト

トのみを特別扱いはしない。

・報告会の会場の定員は 207 名だが、JCI 会告では 120 名とする。集合時間等は、事務局から連絡する。

以上